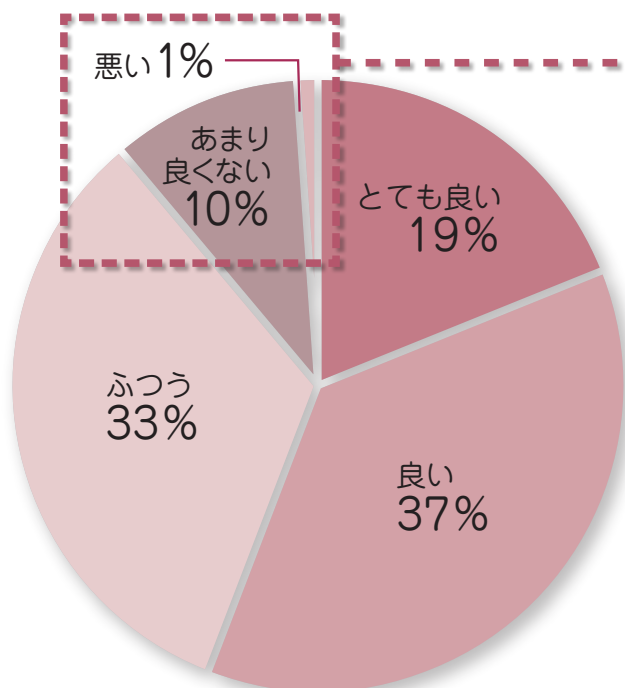


## Q. 主治医との"相性"について、どうお感じになりますか？



n = 502

### 「あまり良くない」「悪い」と回答された方への質問

#### Q. どのように対応していますか？

(n=52 複数回答可)

我慢している	77%
転院を考えている	37%
転院した	15%
主治医本人へ不満を伝えた	11%
医療スタッフへ不満を伝えた	10%
事務の人に不満を伝えた	4%

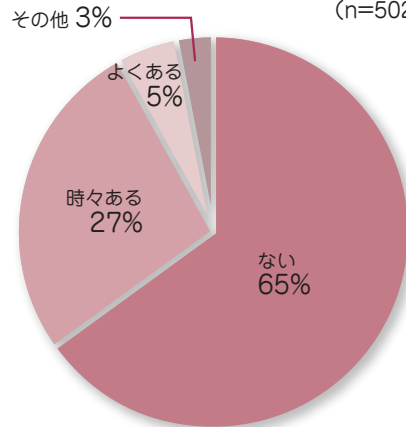
患者さんでは、56%が「相性が良い」との回答でした。「相性が良くない」と回答した人のうち77%は「仕方ないと諦め我慢している」、37%が「転院を考えている」、実際に「転院したことがある」のは15%。医療スタッフも「我慢」が多数でしたが、患者さんの方が「我慢している」割合は高いようです。しかし、主治医に聞きたいことを話しているかを伺ってみると、半数は「必要なことのみ」、4割が「気軽に何でも」とのことです。我慢しつつも、“会話”によってその溝を埋めている様子が見受けられました。

さらに、主治医や医療スタッフからの声

かけや態度などで、治療への意欲が下がるか？という問いには、65%が「ない」と回答、32%は「ある」との答えでした。意外とモチベーションに影響していないように見えますが、主治医や医療スタッフにかけられた印象的な言葉(傷ついた言葉、嬉しかった言葉)について聞いてみると、多数の紆余曲折な思いが寄せられました。血糖コントロールが多少よくない時、その結果を責めるばかりでなく、患者さんへ信頼の姿勢を示す言葉や励みになる言葉をかけ、次はがんばるぞ!と奮起させることも有効のようです。

## Q. 言われたことや態度などで、治療への意欲が下がることは？

(n=502)



### ●コメンテーター●

#### 鈴木吉彦

(日本医科大学客員教授、HDCアトラスクリニック院長)

一生治らない病気の治療ですから、医師も患者さんも、一生、お付き合いする相手同士になります。そうなると結婚と同じで、「相性」があう事や血糖コントロールという「結果を出す事」が、優先されるのは患者さんからみれば当然でしょう。厳しい事を言っても、それが科学的に正しい事で、相手を思って発言している医師や医療スタッフの言葉であれば、大概は心が通じあうと思います。患者さんのサイドに立って助言できる事、会話ができる事は、糖尿病の臨床において最低限、医師や医療スタッフにとって必要なことです。

## Q. 主治医や医療スタッフにかけられた傷ついた言葉、嬉しかった言葉

### ■嬉しかった言葉

- ・「よくがんばってるね」だけで救われます。
- ・「この程度で、がっかりする必要ありませんよ」とボンと肩を叩かれた。
- ・「一緒にがんばりましょう」
- ・「あなたなら大丈夫」と太鼓判を押してくれた。
- ・「あなたはファーストクラスの患者」
- ・「自分のペースで少しずつ良くなれば大丈夫ですよ」
- ・「あれこれ言われて調整するより、自分で考えて調整する方がうまくいってるじゃない?」
- ・(HbA1cが下ならずモチベーションが下がってしまった時)「通院を続けているだけでも違いますよ」

### ■傷ついた言葉

- ・「とにかく、痩せろ! 痩せないなら、食事をするな!」
- ・「注射しなければ、死ぬだけだよ」
- ・「糖尿病の人はいずれ目が見えなくなるから・・・」
- ・「糖尿病にだけは、なりたくないわ」
- ・「あなたは糖尿病の顔をしている」
- ・(医療費が厳しいと相談したら)「食べてるからHbA1cが高いんだろ。食べる分で毎月通えるだろ」
- ・(発症5日目の1型患者に)「あなた食いすぎだよ」
- ・「頑張り足りないんじゃないの?」
- ・「あなたの病気は人より寿命が短いから・・・」

(自由記述より抜粋)